

小さな大人 大きな子ども  
千葉大学教育学部の歌

作詞：谷川 俊太郎  
作曲：山本 純ノ介

The musical score is written for voice and piano. It begins with a tempo marking of Adagio (♩ = 48). The melody is marked *mp* and the piano accompaniment is marked *p*. The lyrics are in Japanese. The score includes various musical notations such as dynamics (*mf*, *f*, *ppp*), articulation (*acc.*, *div.*), and performance instructions (*Obbligato*, *Unison*, *a piacere unis.*, *a tempo*, *poco poco*, *morendo*). The piece concludes with a final chord and a date stamp: 2022 08 15.

「小さな大人 大きな子ども 千葉大学教育学部の歌」の作曲に寄せて 千葉大学教育学部教授 山本純ノ介

教育学部の歌を作りましょう。揚原先生に勧められた私は、素敵な詩があれば是非やらせて頂きたいと伝えた。学生の頃の私は、作曲したい現代作品のイメージが次々に連なっていて希望に燃えていたが、ある時「迷い」を感じる。自己の内的衝動を追求する一方で他者と共に共感する作品の重要性に気づく。千葉大学教育学部をとおして様々な教育現場に直接触れるようになり、「ヒト」を育む責任、意義「無償の愛」の意識をより強く見出すようになる。若い頃は「老いていくこと」が「死」と直結しているとは到底思えなかったが、今はその足音が聞こえ「老い」を実感する。強い老眼で耳が遠くなり白髪混じりになった頭をかかえながら大好きな作曲も次第に時間がかかる様になった。けれど、私を育てくれた千葉大学に足跡が残ればとても嬉しいと素直に思う。

作曲にあたり、私の一方の柱である現代音楽でなく、ごく日常の風景の断片、自己を見つめている自分、といった素直な音楽を創りたいと思っていた。すると幸運なことに谷川俊太郎さんの詩が届いた。そこには千葉大学で可能性ある若い「ヒト」、や様々な「子ども」、「大人」と共に私の人生の多くを過ごしてきた「時間の凝縮」があった。内側に濁々と流れている感謝の想い、言葉、意欲、エネルギーの表出があった。自分で突き進んでいける「ヒト」にはさらに大きな果実を掴んで欲しいし、寄り添わなければ沈んでしまいそうな「ヒト」にも、小さくてもいいから熟した果実を見出してほしい。そんな思いをこめて作曲させていただいた。「ヒト」は可能性の塊であり、多様性の宝庫でそれに火をつけたり燃料を注いだりするのが、我々教員の役割と感ずる様になった。一方でポテンシャルの高い「ヒト」をどれだけより高く引き上げられるのかも期待されている。

私の様に「迷い」を感じた時にこの歌を口ずさんで頂ければ、と密かに思っている。